

# 2学年通信

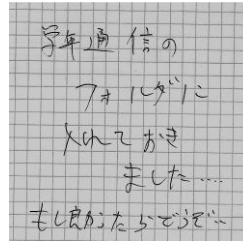
## Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2 学年通信 78 号 通算 142 号

2016. 11. 18 (金) 発行

恥ずかしい話なのですが私は片付けができません。幼い頃からそうなのですが、この歳になるまで改善される気配もありません。職場の人には大変迷惑をおかしていますが、あと 10 年位なので我慢して頂こうと開き直っています？ その散らかりホーダイの私の机の上に「名も無きメッセージ」がチョココンと置いてありました。これは何かの間違いだと思い捨てようとしたとき、「あっ！」と痛烈にある人の名が脳裏をよぎりました。君の名は？ 山口優先生からの寄稿です。



**2 学年通信の愛読者の山口優です。**この 2 学年通信はいつも横山先生からプリントを頂いているのですが、普通に机の上に置いてあることはまずありません。ペン立ての中、椅子の上、弁当ケースの中などなど、読むまでにちょっとしたドラマ(?)があるのも、この通信の魅力ですね。生徒諸君には全く伝わらないと思いますが…。この通信の魅力と言え、なんとと言っても「即時性」ではないでしょうか。私も以前紹介していただいた通り、横山先生とは通信仲間で、よくお互いのものについて意見を交換しているのですが、米興の(この略称を見ると、横山先生の文章だな、と思います。)タイムリーな話題が、場合によってはその行事があった当日に発行されるという(しかも B 4 両面のフルボリュームで。これは本当に大変なんです。相当な「熱量」が必要だから。私は毎週 B 5 一枚書くのだからやっつです。)スピード感。恐れ入ったという感じです。2 年生の写真も大量に載っているし、これも選ぶのが大変。というか撮るのも大変。レイアウトを考えるのも結構時間が掛かる。レイアウトと言え、2 学年通信 No.29 通算 93 号の体育祭特集が素晴らしい。2 年 5 組の集合写真(みんな良い表情!)の配置の仕方は勉強になりました。気になる人は HP で確認してみてください。

僭越ながら、勝手に私が(特に)好きな通信を紹介すると、「2 学年通信合唱コンスペシャル」号、これは HP に乗らないので、レア感があり、マニア心をくすぐります(?)。あとは「好きなことを書いてみようと思う」シリーズ。中でも 49 号は、興譲祭の記事なのですが、ホッケー部の歴史を伺い知れるので、とても興味深い。あとは「品格とは I・II (52 号)」。

ティッシュ配りから、「品格」を考える横山先生の気付きがユニークだし、私も「品格」がある人間から程遠いので、勉強になります。あとは保護者の方の通信は非常に新鮮です。53 号の片桐部会長の「全国高等学校 P T A 連合会千葉県大会に参加して」の記事は、読みながら思わずじゃんけんの「グー」の形を作っていました。私は②の「理的で、奥ゆかしく、分析能力が高いタイプ」でした。といっても女性ではないのですが…。あと忘れてはいけないのは 69 号。2 年生女子のお父様ということでしたが、「熱量」の話は、私も全く同感です。そう思うと同時に、普段の自分が書いている文章はどうだったのかな…と深く反省させられました。そういう気付きを与えて頂いたことに感謝ですね。熱量といえば、「私の夢・特技 etc.」シリーズ。これは 2 年生全員分紹介するという、壮大かつ読み応えがあるものですが、何と言っても 61 号の現自治会長の記事は度肝抜かれました。その分量と内容に。こちらも気付いたら「神山」くんを「ググって」おりました。ジャニーズなんて…などという少なからぬ偏見を持っていたんですが、ジャニーズを含めた「アイドルという存在」について考える契機になりました。非常に示唆に富んだ、といったらたぶん言い過ぎなんですけど、好きなものを熱く語れるエネルギーって生きていく上で大事ですよ…。

しかも相手に興味を持ってもらえるように伝えたい!!!というメッセージ性もあるから、思わず惹きつけられてしまう。そういう文章を書いてみたいものだなあとしみじみ思いました。(ただ時と場合と相手は選んでね。そういう意味でも学年通信は非常に良い場だと思うのです。)他にも「南陽高校で学んだことを思いつくままに書いてみた」(58 号、さすが数学の先生と言った感じですか?)、我がが三年生のセンター試験「100 日前集会」の様子を紹介して頂いた 66 号、「今から対策!『THE センター試験』」シリーズ(これは今の三年生にも読ませたい!)など、枚挙に暇ありません。この学年通信は横山学年が掲げる「日本一」のものだと思います。二年生のみなさん、これは本当に幸運なことなので、いろんなものを受け取って、日々の生活の「糧」にしていってください。長々と書いてしまいましたが、この場を借りて、2 学年通信への思いを語らせてもらいました。

さて、本題(?)に移ると、三年生を連続で経験している私から、センター試験へ向けての直前レポートをお願いされていた(ような気がする)ので、これからの受験の最前線について、書かせていただきます。そもそも、なぜこんなに長い文章を打つ気になったのかということ、昨日、サッカー日本代表が W 杯最終予選で勝利を収めたからに他なりません。スポーツというのは月並みですけど感動やエネルギーを与えてくれるものだと思います。サッカーの場合、国際親善試合などもテレビで放送されますが、やはり W 杯予選のような「公式戦」でないと熱くありません。なぜなら負けたら終わりの「真剣勝負」だから。基本的には一回限りだし、その一回の試合・競技を、どのように準備して臨むかに全てがかかっているから。そういう切実さを感じれば感じるほど、食い入るように試合を観てしまうし、応援も自然と熱が入ってくる。だから野球の甲子園予選や 4 年に一度のオリンピックなどのスポーツに夢中になるのだと思います。スポーツに限らず、例えば吹奏楽のコンクールや発表会、プレゼンテーションなどもそうです。高校時代は「短い時間の中で、自分を如何に成長させて目標を達成するか」という機会がたくさんあります。そして「大学受験」もこの延長線上にあると個人的には感じていて、基本的には 1 回きりのセンター試験や個別試験にどのように立ち向かって行くか、ということが人間としての「成長」につながっていくものだと信じています。社会に出ると、意外と「1 回限り」だ、というものは多くありません。取り返しがつかない、ということは多くありますが…。大抵はチャンスが(もしくは立ち直ってもう一回チャレンジする敗者復活戦が)待っていれば得られるものだと思うし、そこらへんの社会の「懐の深さ」は私のような若輩者より、いろいろな経験をお持ちの横山先生に聞いてみてください。若干脱線してしまいましたが、センター直前期の「三年生の今」ということでした。国公立大の推薦入試は今週がピークなので、その対策に没頭していたり(今日は山大の推薦です。みんなファイト!)、担任との面談を通じて 11 月マーク模試の結果をもとに、センター試験後の出願のパターンを検討したりしています。出願パターンというのは、①上手く行った時(目標点が取れた時)、②まずまずの時、③厳しい時、というように、様々な事態を想定して、事前にどの大学を受験するのか確認しています。①であれば文句無しですが、どうなっても良いように②③を「転ばぬ先の杖」ということで話し合います。そのために併願校として、私立大学や専門学校の検討も同時に行います。そこで大事になってくるのは自分の「こだわり」です。国公立大学の、この大学でなければならないのか、学部学科はどうするのか、地理的条件、経済的な事情、特別に配慮しなければならないこと…等など、ここが無いと、我々としてもどのようにアドバイスしたら良いか路頭に迷ってしまうので、そうならないように今のうちから大学選びの「こだわり」を作っておきましょう。そのために第一志望はもちろん、アンテナを広げて、様々な大学の学部・学科の情報収集を二年生のうちしておくことが重要です。それが後悔しない進路選択につながっていくと思います。紙面も尽きてきたのでこのへんで…(続くかも?)



山口優 T & 山口英雄 T のダブル山口ツーショット

## 米沢七中卒業生の「私の夢・特技 etc.」 2年3組 I. K さん (ホッケー部)

私が好きなことは、食べることと、寝ることと、スポーツをすることと、スポーツ観戦をすることと、時々友達とさわぐことと、お買い物をする事と、車やバス電車で揺られながら音楽を聴くことです。好きなものは、ホッケーとホッケー部の皆と、宇宙が好きです。5組のYさんには、食べる事と寝ることは人の三大意欲のうちの2つだよ、と教えてもらいました。3つのうち2つが好きなことであるのは、幸せなことですね！スポーツをすることは、元々体を動かすことが大好きなので、特に球技や水泳、スキーなんかはすっごく好きです。でも、長距離やマツト運動は苦手です。あと、上体起こしも嫌いです。スポーツ観戦は特にテレビではホッケーや野球、サッカーなんかもよく見ます。いつか日本代表の試合を自分の目で見てみたいと思っています。あとは、高校男子のバスケの試合を観るのが大好きです。中学1年生の時に初めて高校男子のバスケの試合を観て、それからもうずっと好きです。とても迫力があるところや、あのリングに吸い込まれるようなきれいな弧を描いた3ポイントシュート、あのキレのあるカットイン、素早い攻守の切り替え…。もう見ているこっちが興奮してしまいます。皆さんもぜひ見てみて下さい。きっとその魅力に気付くはずですよ!!…(その他省略)…



次に私の好きなものについて。まず宇宙から。(てか、そもそもこの『宇宙』っていう漢字がすばらしい!!かっこよすぎる♡)どこが好きかと聞かれるとココだ！と答えられないのですが、とてもたくさんの謎や不思議があるところにすごく興味を持ちます。書き出すときりがないのでここでは書かないでおきますが、その宇宙の中でも特に好きなのは“ブラックホール”です。これもまた無数の、無限の謎があるところがもう大好きです。宇宙のことを考えると体がムズムズして、興奮状態になってしまいます。又、その宇宙のきれいな写真や惑星などの画像を見ることも大好きです。もし、宇宙が好きな人がいたら、気軽に声かけて下さい！

最後に…。私はホッケーが大好きです。ホッケー部の皆が大好きですよ!!ということで、ここで改めて女子ホッケー部の6人のメンバーを紹介します。まず初めに1人目は2組のKCさんです。(ちなみにポジションはMFです)この方はなんでもできてすばらしい方です。特になんといってもすごいのは“モノマネ”。彼女のモノマネはもう全て本物そっくりです。きっとモノマネが上手なもの、頭がいいからなんでしょうね。皆さんもぜひKCさんにモノマネしてと頼んでみて下さい。きっと喜んでくれますよ♡2人目は2組のKHさん。(ポジションはGK) KHちゃんはもういつ見てもかわいい。やることも全部かわいい。かわいすぎる！私の目の保養(?)です！でも普段はこんなにほわんとしてかわいいのに、いざ部活となって防具を着た瞬間別人のようにどんな速い球でもすべて止めます。瞬発力がハンパじゃない!!このギャップにも惚れますね…。3人目は2組のHCさん。(ポジションはMF)この人は最近はありませんが、変顔の絶えないとてもヤバイ隠れ変人です。彼女の本当の姿を知ってしまったら…。あと、とてもかまちょです。さみしがり屋なんですね。でもいつも部員を1番に思ってくれる頼れる部長さんですよ!!4人目は3組のTRさん。(ポジションはFW)彼女はいつもどこかおかしくて、味音痴でそして私が何か暴言を吐くと大笑いして喜んでくれます。今日も部活後笑ってくれました。TRさんとはクラスが一緒だったり、土日部活後の勉強など、何かと一緒にいる時間が長いです。5人目は4組のNMさん(ポジションはFW)彼女はテレビに出る芸能人並みの演技力を持ちます。涙を流すこともできたり、ブリッコのまねをしたり、とにかくすごいです。あと、ゲジゲジを素手で触ることもできます。もうここまでくると彼女は人間ではありません。彼女はいったい何者なのでしょうかね…。ラスト6人目は5組のYYさん(ポジションはDF)この子と私は中学時代、お互いの存在を知るくらい関係でした。

話したことは一度もありませんでした。でも同じ部活に入り、お互い毒舌なところや、考え方が同じだったり共通点がたくさんあります。あと彼女は賢い。時間の使い方がうまい。ムダがない！とにかく賢いです。このように皆それぞれとてもキャラが濃く様々です。でも部活の皆という時間はとても楽しいし、何よりいつも“青春”を感じます。もう家族同様の仲です。もう我慢することは何もないし、言いたいことは言いやりたいことはやり放題です。これからも、これからもずっと先もたくさんの思い出を作って皆ですっと仲良くしていきたいです。最後になりますが、ここまで読んでくれた皆様ありがとうございました。これからも私も含め、ホッケー部をよろしくお願いします!!

PS. 私の第一印象はよく真面目で話しかけないでオーラを感じるそうですが、そんなことはありません。どんどん気軽に話しかけて下さい。テンション高いときはもうはっちゃけるので!すごく盛り上がると思います。男女問わず気軽にどうぞ!!

### タコ紹介 I

文責 横山

山口優先生に寄稿のお礼をしたところ「いやァー、納得できる文章でないんですけど」と恐縮されていました。その気持ちよく分かります。いつもウジャウジャと通信を書いています「完璧や！」と確信できるような文章はそのごく一部です。それも、そのときそう思うだけで、読み返すと後悔したり恥ずかしかったりすることがほとんどです。そう思うと「100点満点の文章」なんて存在するのでしょうか。例えば、神山君を書いてくれた自治会長さん、講演をコース料理風にアレンジしてくれたホッケー部マネージャーさんの文章は私には新鮮でした。それは、手書きの文面を打つてみるとよくわかります。「そう繋ぐか？」とか「この言葉で来るか！」など、自分自身が使わない・使えない表現の仕方や言葉に溢れています。自分が持っていないモノには必ず違和感が付きまといますから、彼女らの文章を打つのは楽しい反面、実は心の葛藤も多々あるのです。それは悪い意味ではありません。打ち手や読み手の心が揺れないような文章は、私は「良くない方」に属する文章だと思うのです。事務的に必要な文章は置いておくと、それ以外には「何かしら他者の心を揺さぶるもの」があつて欲しいのです。それは絵画や音楽も同じです。人は読むことや見ることで、少なからず自分の時間を費やします。人生という限られた時間の中で「あえて」読んで観て聴いて下さるわけですから、その時間に対する対価は必要だと思うのです。それは知的好奇心を満たすものでもイイし、笑えるものでもいいのですが、やはり「何かしら1%の文化」は必要だと思うのです。

今年の7月、全日本吹奏楽コンクール山形県予選を聴きに山銀ホールに行きました。米興吹研の課題曲の曲名は忘れたのですが、曲の冒頭のシーンは忘れることができません。静寂の会場のどこからか「チイイン」と微かに儚げに鳴ったあの音。あの僅か5秒足らずの感動が今も心に残っています。某鶴岡南高校も同じ課題曲だったと思うのですが、その冒頭には米興吹研のような感動を感じることはありませんでした(T井先生ゴメンナサイ)。あのような結果でありましたが、私の心を揺さぶったのは諸君の演奏です。たった1人かもしれないけれど、「人の心に何かを残すことができた演奏」だったことを誇りに思っているのです。東北大会や全国大会に行くということは、上手下手の結果でなく、「さらに多くの人達に感動を与えることができる」そういうことなのです。来年度はそのようなチャンスが訪れるよう、今から最高の音楽を目指して励んで下さい！来月のアンコンはその意味では「個々の技術と技量、感性を高める最良の機会」だと思います。相手と競うんじゃ無く、自らを高めて他者と協働することが大切なのです。まさに米興の精神でいいのです。音楽も。吹研と言えば、2年4組の上村明紀子さんが読書感想文コンクールで「山形県最優秀賞！」に輝きました。この後は全国審査だそうです。おめでとう！全国選抜出場を決めた卓球の片桐圭紀君、科学の甲子園山形県優勝といい、最近の米興は嬉しいニュースに溢れています。「学年目標：日本一」を掲げて、生徒諸君が日々精進している成果です。学びも同じです。2年生諸君の「進路志望」は全て読みました。それらは「今日からの努力で必ず実現できるものである」と、米興10年の経験から確信しました。不安になる気持ちは十分にわかります。しかし、誰かができたからといって自分もできるわけではなく、誰もできなかったからといって自分もできない何てことは無い。どんなことでも「一番最初に成し遂げた人」がいるはずだ。その1人に君がなればいい。まずは今から、心を整えて、環境を整えて(私の机上のように?) 期末考査に向けて日本一!の学びを実践することです。すれば「なる」んです。鈴木晃彦先生も岩手から応援してくれているはず！結びに。となりのケイコさんが、通信完成直前に2118字の原稿をブっ込んできたので? こんな小さな字になってしまったワイ。でも、ホッケーのこと大好きな彼女なので許す。こんなにも誠実にホッケーに尽くしている人を、私はあまり見たことがありません。なお、表題ですが「自己紹介」に対して、他人を紹介するので「他己紹介」、ちょっと外して「タコ紹介」です。優先生がタコだなんて意味ではありませんから。しばらく続けてみようかな? **終**